

◆「新しい川崎」メール版◆

－2026年1月27日第213号－

<目次>

● 自衛隊への名簿提供中止の陳情は不採択、でも、諦めません！

◆ エネオスの新火力発電所についての環境アセスに参加を！

▲ お知らせコーナー

① 1/21 学習会「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」

② 1/31 映画会「サイレント・フォールアウト」（見えない放射線旗下物）

③ 2/7 スパイ防止法の成立に反対する市民集会

④ 2/10 市民要求実現アクションの準備のためのオンライン交流会

⑤ 2/12 2026年第1回市民要求実現アクション

⑥ 2/28 ゆめシネマ「マヤ一天の心、地の心ー」

★ 編集後記

※1月27日、総選挙選挙公示日となりました。

解散の翌日24日の東京新聞の1面の大見出しへは「くらし後回し解散」でした。本当にその通り！です。

川崎市も今は2月12日に始まる予算議会の準備で多忙のところに、総選挙準備が割り込んできたのです。

川崎市民も、くらし支援に関わる予算議会に向けて、「市民の声を聞く市議会に！」と取り組みを集中しなければいけない大事な時期なのです。

いのちと暮らしを守る川崎市民連絡会が、2年前から始めた「市議会開会日昼休みアクション」も、今回ばかりは準備が遅れています。

急ぎよ以下の日程で、川崎市議会への取り組みを行います。

① 2月10日（火）18時から19時半 オンライン交流会（アクション当日の発言調整も実施）

2月予算市議会に向けて、「（仮）暮らし応援・市民要求書」を作成し、議員に届ける計画です。

② 2月12日（木）12時から13時まで、2026年第1回市民要求実現アクション

※くわしくは、今号のお知らせコーナーを見てください。

● 自衛隊への名簿提供中止の陳情は不採択、でも、諦めません！

私達「中原革新懇」が昨年12月に川崎市議会議長に陳情提出した、「川崎市が個人情報を自衛隊に提出しないことを求める」の審議が先週1月22日水曜日に文教委員会でひらかれ、6人の仲間と一緒に傍聴に行ってきました。

審議の結果は不採択でした。

<陳情の趣旨と川崎市の反論のポイント>

私たちは、陳情の趣旨を次のように2点にまとめて提出しています。

- ① 市が自衛隊に協力し、本人の同意なく個人情報を提供するのは、憲法13条ならびに個人情報の保護に関する法律等に違反している。
- ② 自衛隊への情報提供の可否は、自治体の判断で可能であり、自衛隊への個人情報の紙媒体での提供を中止すること。

しかしこの内容の陳情が不採択になったのです。

川崎市当局が説明する「提供できる法的根拠」は2つありました。

- ① 1つは、令和2年に閣議決定され通知された内容です。

それによると、自衛隊の募集に関する事務について「住民基本台帳の1部の写し」を用いることについて、「住民基本台帳上、特段の問題を生ずるものではない」旨が通知されたことです。

- ② もう1つは自衛隊法により、「地方自治体は自衛官の募集に関する事務の1部をおこなう。」という2点でした。

<個人情報名簿の紙媒体の提供には、法的根拠はない>

しかし、この市当局がいう「法的根拠」は、共産党の市古議員が何度も追及したように、

情報提供を全くしていない自治体が幾つかあるのですから、「法的根拠にならない、自治体の判断でことわる事が出来る！個人情報の保護が大切である！」のです。

しかし、この厳然たる事実に対しても「法令に基づく自治体の法定受託事務であり、総合的に判断した！」と何度もくり返すのみでした。

<川崎市が名簿提供をやめるまで、諦めません！>

ほぼ予想した審議内容でした。

採決は共産党市吉議員と小堀議員2人の「採択！」以外は、9名が「不採択！」でした。

今回の署名活動は、中原革新懇として昨年の7月に始めたのですが、他団体との共同の取り組みにすることことができず、523名で終わりました。

やはり市議会を動かす為には、もっと多くの署名を集めて「青年の個人情報を自衛隊に提出するな！」「戦争につながる情報提出はやめて下さい！」「憲法で保障する個人情報の保護を守って下さい！」などと市民の声を広げていく必要があると思いました。

以上です。

栗原伸元（中原革新懇共同代表）

◆ エネオスの新火力発電所についての環境アセスに参加を！

先週のメルマガで報じた「扇町・新火力発電所建設計画」は、現在、「環境影響評価方法書」に対する意見募集が行われている段階（2026年2月8日まで）であり、集まった市民の意見に対してENEOSがどのような具体的回答（特に水素への切替時期の明示など）を示すかが、今後の反対運動の勢いを左右すると言われています。

しかし、この計画をしっている市民は極めて少ないのです。

まず、この計画を知らせてください。

現在すでに、川崎市は国内でも有数の「火力発電集中地帯」であり、そこから出るCO2は市全体の排出量の半分以上を占めています。

ここに新火力発電所をつくることに反対の皆さん、ぜひ、声をあげましょう。

意見書の文例を、AIに相談したところ、以下の文例が届きました。

これらを参考に、ぜひ、あなたもこの環境アセスに参加して、地球の、そして、川崎の未

来を守りましょう。

パターン A：市の政策との「矛盾」を突く（論理重視）

＜タイトル案：市の脱炭素目標との整合性について＞

川崎市が掲げる「2050 年 CO2 ゼロ」戦略を支持していますが、今回の（仮称）扇町天然ガス発電所計画はこの目標と真っ向から矛盾すると考え、白紙撤回を求めます。

2033 年に稼働を開始し、年間約 200 万トンもの CO2 を排出し続ける施設を新設すれば、市の目標達成は事実上不可能になるはずです。

世界的に脱炭素が加速する中、今から 30 年近くも化石燃料に依存し続ける計画は時代遅れです。

新規の火力発電所ではなく、蓄電池の活用や再生可能エネルギーへの抜本的なシフトを優先してください。

パターン B：次世代の「未来」を想う（感情・市民の願い重視）

＜タイトル案：子供たちの未来と気候危機への対応について＞

深刻化する気候危機を目の当たりにし、川崎に住む一市民として、また次世代にこの街を引き継ぐ者として、新火力発電所の建設に強く反対します。

2033 年という、本来なら脱炭素が最終段階に入っているべき時期に、なぜ新たな排出源を作るのでしょうか。

子供たちが大人になった時、「なぜあの時止めなかったのか」と問われるような決定をしないでください。

川崎市には、工業都市としての技術力を活かし、火力に頼らないクリーンなエネルギー政策を先導してほしいと願っています。

パターン C：短くシンプルに（忙しい方向け）

＜タイトル案：扇町天然ガス発電所計画の中止を求める＞

現在計画されている扇町天然ガス発電所の新設計画に反対します。

理由は、年間 200 万トンという膨大な CO2 排出が、川崎市のカーボンゼロ目標を台無し

にするからです。

気候危機がこれだけ叫ばれている中、新しい火力発電所を作るべきではありません。

川崎市は事業者を指導し、計画を白紙に戻させてください。

火力ではなく、100%再生可能エネルギーを目指す施策に税金や資源を投入してください。

[→環境アセスメントについてはここから](#)

★ お知らせコーナー

① 学習会「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」

～「住まいの権利」から考える～

講師；和洋女子大学名誉教授；中島明子先生

1月 22日(木)18 時 30 分

川崎市総合自治会館大会議室

問合せ、共産党市議団 044-200-3360

② 映画会「サイレント・フォールアウト」(見えない放射線降下物)

アメリカ・ネバダの核実験から広がったアメリカ大陸の放射能汚染の実態に迫る。

1/31(土)9:45～11:45

総合自治会館 ホール

参加費無料、事前申込不要

主催・NPO 原発ゼロ市民共同かわさき発電所

・原発ゼロへのカウントダウン in かわさき

[予告動画](#)

③ スパイ防止法の成立に反対する市民集会

講師 青木理さん (ジャーナリスト)

2/7(土) 午後 2 時

会場 鶴見駅前ホール (加瀬の会議室)

入場無料

主催 自由法曹団神奈川支部、他

④ 市民要求実現アクションの準備のために以下のオンライン交流会

2/10(火)18 時～19 時半

リアル参加は、川崎民主市政をつくる会事務所（ゆめホール 301 号室）

オンライン参加

ミーティング ID: 247 279 0410

パスコード: 4JqYyP

⑤ 2026年第1回市民要求実現アクション

2/12(木)12 時～13 時

第1回川崎市議会（予算議会）開会日

主催 いのちと暮らしを守る川崎市民連絡会

⑥ ゆめシネマ「マヤ一天の心、地の心ー」

2/28(土)①9 時②12 時③15 時

かわさきゆめホール

申込：044-433-3003(ゆめホール)

cinema@kawasakiyume.com

予告動画

★編集後記

2月のゆめシネマ「マヤ一天の心、地の心」は、マヤの伝統を語り継ぐマヤの子孫たちの姿。

彼らを襲う「経済至上主義」、グローバリズムと環境破壊の現実を描き出します。

現代のマヤ人 900 万人が暮らすメキシコのチアパス州とグアテマラは、グローバリゼーションによって翻弄されています。

遺伝子組み換え作物、グローバリゼーション、鉱山開発などにより、地球が破壊され、マヤ人たちの文化や生活環境が崩壊。

現代マヤ人に起きていることは、私たち自身が抱える問題の縮図といえるかもしれません。

「経済至上主義」の社会は、富める者はますます富み、貧しきものは収奪されてさらに貧しくなる社会です。

総選挙が始まりましたが、ここでも「経済至上主義」が問われています。

「食料品にかかる消費税の税率をゼロにすることは私の悲願」という高市氏の発言には仰天しました。

いったいいつからそういう考えになったのでしょうか。

多分、2025 年の維新との政策合意からなのでしょうが、「悲願」というにはあまりにも軽薄です。

消費税引き下げの世論は大きく、世論調査でも 60~70%が求めています。

「この世論と真っ向から対立すれば選挙に勝てない。」腹の底が透けて見えます。

しかし、これも「2026 年度内実施を目指す」と相変わらずはじめからやらない口実と、2 年限定というおまけまでついています。

財源は、大企業、大金持ちの優遇税制をただせば生み出せます。

そんなことよりも解散の高市氏に騙されるな。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆